



《春の飯田山荘》 4月25日(日)に鈴木さん、辻さん、岡庭、川村×2の計5名で“茶摘”の打ち合わせかたがた合宿所へ行って来ました。丁度この時期は梨の受粉作業の時期で、飯田さん御夫妻は天候に左右されながら時間に追われるという、お忙しい時期でした。その日、岩間地区は霜注意予報が出ており、天気予報通りとなりましたが、合宿所のある所は、幸いに霜は降りないそうです。しかしながら飯田さんのお話では、この天候不順で今年は梨や梅も成りが悪いそうです。後日、久慈川農園産物の落合さんから聞いた話ですが、この日、大子では氷が張ったそうです。このような天候具合ですので、今年の作物は冷害であまり期待出来ないかもしれません。少し心配ですね。

山荘に入ると、合宿所の土手には花大根の紫が、私達を迎えてくれました。奥の階段側の山桜も負けじと満開に咲いています。親方の岩野千穂さんの話を頂くと、“山荘が



生きています!”です。毎週、坪さんに手を入れてもらっているとはいえ、ここでも大子の大森山荘と比較せざるを得ません。大きく違うのは、雑草の種類です。大子のイラクサには参りましたが、飯田山荘の草達(当然雑草にも名前はあるのですが)は、みな名前がわかるものばかりです。たとえば“よもぎ、みつば”等で、皆食べられます。裏の土手に回ると、祠(ほこら)の周辺では二輪草が迎えてくれます。飯田山荘の雑草は、優しく、かわいい草達で、カラフルな花が私達の目を楽しませてくれます。素敵な“春の飯田山荘”を満喫しました。またアジサイは皆花芽を付けていて、これらが楽しみです。みんなで片付けをしていると、お世話頂いている田口幸夫さんが合宿所にみえました。完成した焙炉(ほいろ)の説明をうけ、また「沢の水がきれいになっている」というので一緒に見に行ったところ、確かに池の底までよく見えて、魚たちも随分と大きく育っている様でした。上の沢にたまりを作って放したカジカガエルのオタマジャクシを見に行ったところ、何故かこの日は見当たりませんでした。又コンクリートのいけすの中をのぞいてみると、1匹の親のカジカガエルが水に飛び込みました。水中にはカジカガエルのオタマジャクシは見当たらず、黒い小さな斑が入った、茶色の少し大きめの日本アカガエルのオタマジャクシがたくさん泳いでいました。



《長谷川先生とミツバチ》午後になり、田口英一さん、菅谷源市さん、飯竹信一さんが合宿所に顔を出して下さいました。お茶の親方:田口英一さんに一通りお話しを聞いてから、しばしの団欒タイム。そして帰り間際、今度は長谷川 清先生が、ミツバチの巣箱と、ハチが集まるという不思議なラン持参で、目をキラキラ輝かせながらの登場です。「数日したら日本ミツバチが入っているはずだ!」というわけです。果たして日本ミツバチの分包成功となるのか・・・またまた楽しみが一つ増えました。菅谷源市さんは昔ミツバチを飼っていたそうで、かなりの経験があり、そこでもうん蓄をお話して頂きました。山荘には実に色々な分野の達人達が集まってきて刺激的です。5月の1泊合宿の時間が楽しみです。

小松克彦さんと美留町 保さんにもお会いしたいと思っていたのですが、生憎この日は愛宕神社の総会の日でご無理との事でしたが、私達が帰る間際にわざわざ挨拶にと、愛宕神社から下りて来て下さいました。本当にお人柄の良い所です。これも大家の飯田さんのお陰と、感謝感激です。

《梨の話》今年例年になく天候不順です。寒い間の枝の剪定に始まり、今は受粉作業真っ只中です。飯田さんの話では、受粉作業は朝10時から午後4時頃に行くそうです。その日によって異なるそうですが、開花具合や天候を見ながら一つずつ手作業で行うという事です。飯田さんの様にあちらこちらに畑のある場合は、またそれぞれ条件が異なります。かなり根気のいる作業ですね。生き物を管理する私達と同様に、大変さがあると感じさせられました。益々、飯田さんの梨を大切に頂こうと気持ちになるものです。

